

滋賀県平和祈念館 第15回企画展示

少女たちが綴った『学級日誌』

—戦時中の瀬田国民学校五年智組—

(会期：平成28年10月1日～12月25日)

語りつぐ 平和へのねがい
SHIGA PEACE MUSEUM

滋賀県平和祈念館第15回企画展示

少女たちが綴った『学級日誌』

戦時中の瀬田国民学校五年智組



「やっぱり唯一の後世に残す記録だったと思いますね」
(当時担任西川綾子先生)

平成28年
10月1日(土)～12月25日(日) 入館無料

開館時間 / 午前9時30分～午後5時
休館日 / 月・火曜日(祝日にあたる場合は開館)
駐車場 / 約50台(無料)

〒527-0157 滋賀県東近江市 中瀬田4-1-1 本館
〒527-0157 滋賀県東近江市 中瀬田4-1-1 本館
TEL / 07-49-46-0300 FAX / 07-49-46-0300
E-mail / haco@shiga-peace.jp

滋賀県平和祈念館

チラシ表面

滋賀県平和祈念館第15回企画展示

少女たちが綴った『学級日誌』

戦時中の子どもたちは、なにを見てなにを感じとっていたのでしょうか。
昭和19年、瀬田町(今の天津市瀬田)にあった瀬田国民学校(今の瀬田小学校)の
五年智組の少女たちは、担任の西川綾子先生のもとで
その日あったことを『学級日誌』に描き綴りました。
少女たちが育った瀬田国民学校を舞台に、子どもたちがみて感じた戦争を紹介します。

【学芸員による展示説明会】
10月2日(日) 14:00～

【地域交流室展示のご案内】
体験型学習展示
※手にとれるハンズオン資料の展示。
9月7日(水)～12月25日(日)

講演会
「瀬田国民学校学級日誌と2人の教師」
講師 / 吉村文成
日時 / 10月9日(日) 13:30～

戦争体験を聞く会
10月16日(日) 13:30～ 「終戦間際の逃避行～アフリカで生まれて～」 大城芳さん
11月13日(日) 13:30～ 「重戦車・神威からの生還」 木本芳さん
12月(未定) 「座談会—戦時中に描いた『学級日誌』(仮)」 奥村早智子さん、吉田苗子さん、本郷登子さん、内田昌代子さん

映画上映会
10月23日(日) 13:30～ 「おじいさんと草原の小学校」
11月20日(日) 13:30～ 瀬田四季ミュージアム「南十字星」
12月25日(日) 13:30～ 「飛べ!タコタ」

くわしくはホームページしがけん・パール平和祈念館をご覧ください。

しがけん・パール平和祈念館 検索

滋賀県立 天津市歴史博物館

チラシ裏面

戦時中の子どもたちは、なにを見てなにを感じとっていたのでしょうか。
昭和19年、瀬田町(今の天津市瀬田)にあった瀬田国民学校(今の瀬田小学校)の
五年智組の少女たちは、担任の西川綾子先生のもとで
その日あったことを『学級日誌』に描き綴りました。
少女たちが育った瀬田国民学校を舞台に、子どもたちがみて感じた戦争を紹介します。
【チラシ裏面より】



パナール写真右：瀬田国民学校五年智組（昭和19年撮影）

大津市歴史博物館提供

左：（昭和19年）四月六日の学級日誌

大津市歴史博物館提供

プロローグ 少女たちが綴った『学級日誌』

昭和19—20年の子どもたち

戦時中の子どもたちは、なにを感じとっていたのでしょうか。

昭和19年、瀬田町（今の大津市瀬田）にあった瀬田国民学校（今の瀬田小学校）の五年智組の少女たちは、担任の西川綾子先生のもとでその日にあったことを「学級日誌」に描き綴りました。校長の矢嶋正信先生が推進した郷土と生活に根ざした教育の実践は、暗い世相にもかかわらず少女たちの生き生きとした表現を生みしました。

大津市指定文化財に指定されたこの『学級日誌』の複製展示を中心に、少女たちが学んだ瀬田国民学校における戦時下の教育、疎開、空襲をテーマに、戦争が日常生活におとした影について紹介します。

今回の企画展示に際しまして、以下の方々からご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

奥村早智子、内田喜代子、本郷豊子、吉田清子（『学級日誌』執筆者）、國松巖太郎（スケッチ作者）、大津市歴史博物館（順不同、敬称略）

なお、日誌の読み下しについては、次の書籍を参考に作成しました。

『1944-1945 年 少女たちの学級日誌 瀬田国民学校五年智組』（偕成社 2015 年）

また、文中には不適切と思われる表現がありますが、当時のことをあらす資料として、そのままにしています。

体験談：五年智組の学級日誌のはじまり

西川 綾子さん（当時五年智組担任）

当時はテレビ也没有ありません。若い人たちはみな出征しているので本屋も閉店していて、子どもたちの手には雑誌も絵本も本も現在のように豊富にはありません。ラジオは戦争の報告ばかり、新聞も戦争の記事で埋められていました。子どもたちの文化を育てるもの、子どもたちの表現力を育てるものは何一つありません。感性の豊かな子どもたちに、どうにかして文化をあげたい、芸術を与えたい、表現力を与えたい。文化がないなら自分たちで文化を作っていくしかないのではないか。そう考えて、絵日記を書かせることを思いついたんです。[平成20年6月、「筆者が語る・戦中『学級日誌』」の講演会の発言より]



左上：四月五日 入学式、始業式

左下：四月八日 大昭和戴日（※正しくは「大昭和戴日」）

右上：四月十二日 教室のチューリップ

右下：四月二十六日 学校の創立記念日



左上：四月十七日 理科の実験

左下：五月十四日 学習園でみつばちの観察を

右上：五月三十日 えんどう豆のししょくかい

右下：七月六日 五智学習園



左上:五月十日 大江の兵隊さんがたくさんの人におくられて
左下:五月十九日 窓の花
右上:五月二十九日 学習園のえんどう豆
右下:五月三十一日 体操の時間

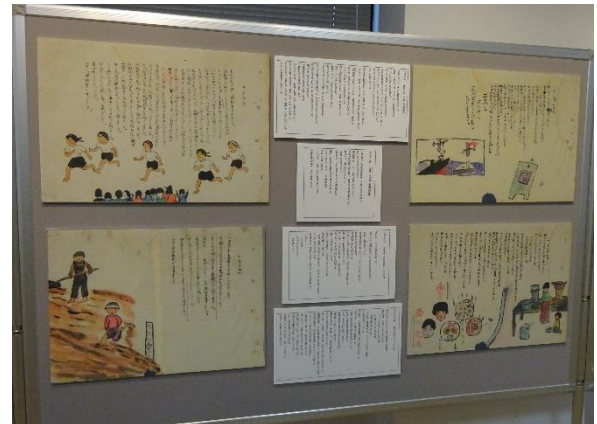


左上:六月十九日 田植えと虫とり
左下:七月十七日 兵隊さんが乗った汽車
右上:七月二十日 そうこうのため、若松神社へ
右下:八月二十四日 夏休み中に作ったもの



左上:九月十三日 飛行機をとばす
左下:九月十五日 飛行機のぼすたーをかく

右上:九月十八日 高等科の人が学徒動員へ
右下:九月二十二日 日の出の時間をはかりに



左上:十月九日 まちにまった楽しい運動会
左下:十月十二日 沖縄・宮古島に敵機四百機
右上:十月二十日 工夫そうさく品をもってくる日
右下:十月二十七日 待ちにまったししょく会



左上:十一月二日 稲刈りの練習
左下:十一月五日 今日からきんろうほうし
右上:十二月十二日 えんそくでなく、行軍
右下:十二月二十二日 保護者会の日



第1章 矢嶋校長がめざした「総合教育」

矢嶋校長がめざした「総合教育」

五年智組の子どもたちが描いた学級日誌は、どのような教育の中で生まれたのでしょうか。

昭和のはじめ、滋賀県は郷土教育が盛んな地域でした。その中でも島小学校（近江八幡市）は郷土教育に熱心な学校で、郷土教育の実践記録を刊行し、全国的に知られていました。島小学校の郷土教育は、島村の生活実態をとらえ、児童・村民のための教材づくりや地域の資料の収集、展示づくりなどをとおして、郷土の調査・研究へと発展しました。矢嶋校長先生は、前任校（豊稜小学校〔現在の東近江市立湖東第三小学校〕）で労作教育の成果をあげました。昭和10年（1935）10月から校長先生として島小学校に在籍して郷土教育の実践に触れ、そのあと昭和17年（1942）に瀬田国民学校へ赴任しました。

瀬田国民学校には、子どもたちが農作業のできる花園や学習園、実習田がありました。矢嶋校長先生は、みずから堆肥や苗を作り、各クラスへ配っていました。子どもたちは学習園で土に触れる体験学習をしましたが、国語や算数の教科学習にも力をいれています。

学級日誌では、学習園でみた動植物を観察した内容がたくさんでてきます。その日にあったことを綿

密に書いて、それを後日振りかえることで追体験し、そうして子どもたちの記憶に定着していく。教科学習と体験学習を車の両輪として、子どもに体得させていきました。これが矢嶋校長のめざした「総合教育」でした。

国民学校

昭和16年3月、「国民学校令」が公布され、尋常小学校から国民学校へと呼び名が変わりました。国民学校の目的は、戦時体制に対応した「皇国民の錬成」を目的とし、学校は授業の内容や作業にも戦争への協力が求められるようになりました。

また、子どもたちは「少国民」とよばれ、「子どもでも立派な国民で、戦争に協力しなければならない。」と教えられました。



ケース内：国民学校の成績簿「通告簿」、国民学校・記名符



上段左から「学校経営ノ目標」、「本校経営の概要」、「本校経営概要」、「訓育方針」、「本校訓育経営案」、「防護計画案」

下段左から「団体勤労作業操典」、「各科目実力錬成学習指導要項」、「国民学校写真解説」



上段左から：標語「貯蓄励行・贅沢排除・節米実行」、
「国民精神総動員強調週間」ステッカー、
「銃後の護りを固めませう」ポスター（複製）、
「国民精神総動員強調週間実施二関スル件」

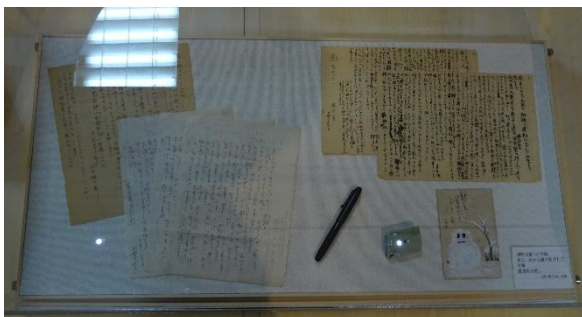
下段左から：『愈々国家総力戦』、
「国民精神総動員」ポスター（複製）

『愈々国家総力戦』は、昭和14年9月に帝国軍事協会から発行された書籍。日中戦争がはじまり、アジア・太平洋戦争がはじまる前に発行されています。国民が総力をあげて、戦争に協力するよう説いています。



バナー写真：(昭和19年) 八月二十二日の学級日誌

大津市歴史博物館提供



池田喬子さん関係資料 疎開児童への手紙、
祖父・父から譲り受けた万年筆、書道用水差し

第2章 大阪からやってきた疎開の子 集団学童疎開

当時戦っていたアメリカ合衆国が、マリアナ諸島へ侵攻してきました。それにより日本本土への空襲が必至となってきました。

滋賀県では、昭和19年の2学期はじめから集団で大阪市の子どもの疎開の受け入れをしました（集団学童疎開）。集団学童疎開の対象は、縁故疎開ができなかった国民学校初等科の3年生から6年生まででした。

浪速津国民学校の子どもたち

昭和19年2学期にはいる頃に、浪速津国民学校の子どもたちが瀬田町（いまの大津市瀬田）へ集団疎開してきます。西川綾子さんによると瀬田国民学校では、疎開児童を受け入れるため一教室を複式学級にして、疎開児童は瀬田の子と一緒に登校して勉強を習っていました。

疎開児童たちは、瀬田川で自分たちが食べるしじみを探っていました。また正善寺に寝泊りしていた3年生女兒は、3月13日夜半に付き添いの先生に起こされ赤々と燃える大阪の方の空を見ました。まさか自分の家が燃えているなどと思いもしなかった、と語っています。その時の空襲で、浪速津国民学校の校舎は半焼しました。

〔赤塚康雄『続 消えたわが母校 なにわの学校物語』 拓殖書房新社、2000年、206頁-214頁〕

疎開先へ持っていったもの

池田 喬子さん

中大江国民学校（大阪市）の児童だった池田喬子さんは、5年生の時に五個荘村（今の東近江市）に集団疎開してきました。

家族と離れて暮らす池田さんの楽しみは、家族へ手紙を書くことでした。父と祖父から譲り受けた万年筆を、疎開先へ持ってきていました。手紙のやり取りは、100通を超えました。疎開児童たちが出す手紙があまりに多かったため、郵便局からはまとめて出すようにいわれました。

疎開先へ持って行った数少ないおもちゃのひとつが、手づくりの箱に入ったおはじきです。滋賀の冬

は厳しく、手や足のしもやけは骨が見えるほどひどくなりました。そのため指も動かさづらく、服もうまく着られませんでした。



池田喬子さん関係資料

疎開先に持っていったすごろく、おはじき、糸巻き、ハサミ、校紋入り茶碗、中大江国民学校徽章、学業精勤賞状



池田喬子さん関係資料 大阪空襲で被災した茶碗



右上：八月三十一日 疎開してきた子に本を読んでもらう

右下：九月一日 疎開の人について

左上：九月二日 集団疎開の受け入れ式

左下：九月四日 いつもの一日



右上：九月七日 疎開の人のいもんに

右下：九月十六日 ししょくかい 疎開のひとといっしょに

左上：十月六日 そかいの人におゆうぎを

左下：二月二十一日 大阪のそかいの人がかえられます



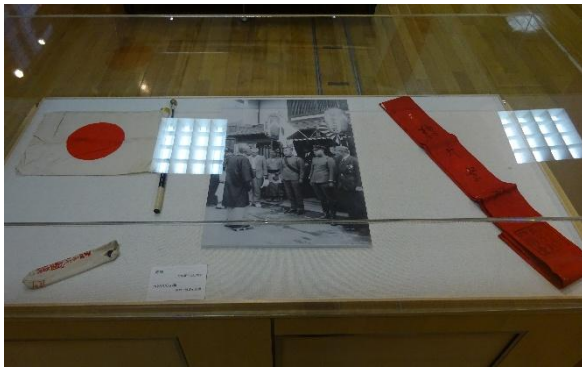
右：国民服上着・ズボン、赤褌

ケース内上段：慰問袋、千人針、「勝七入營銭別帳」、銭別袋
下段：出征幟

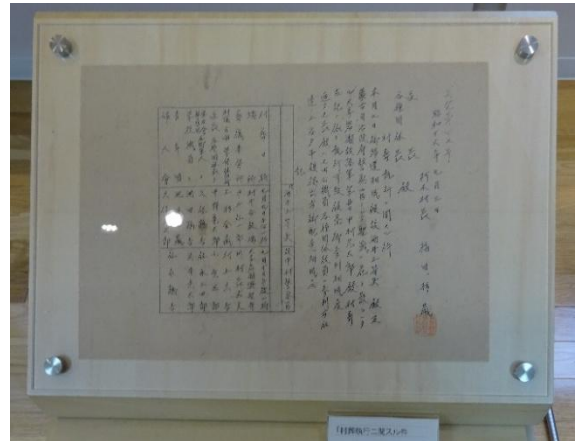


写真：出征

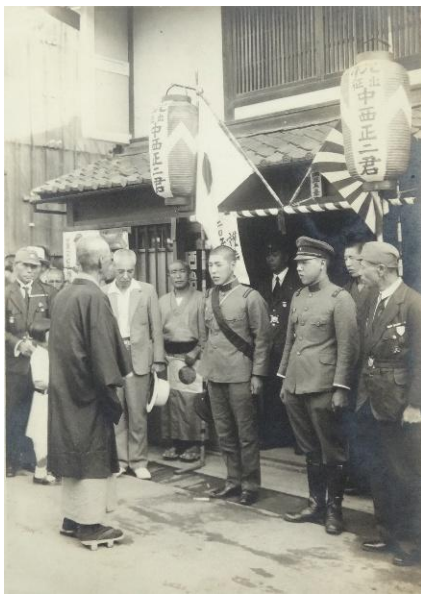
中西一雄さん提供



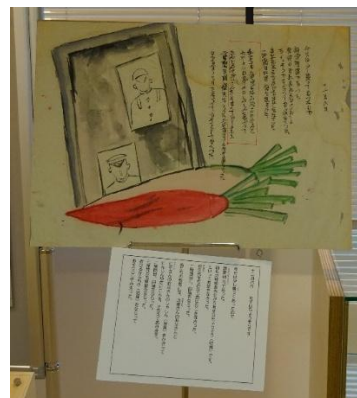
日の丸の小旗、赤褌



「村葬執行ニ関スル件」



写真：出征（大津の自宅前にて） 中西一雄さん提供



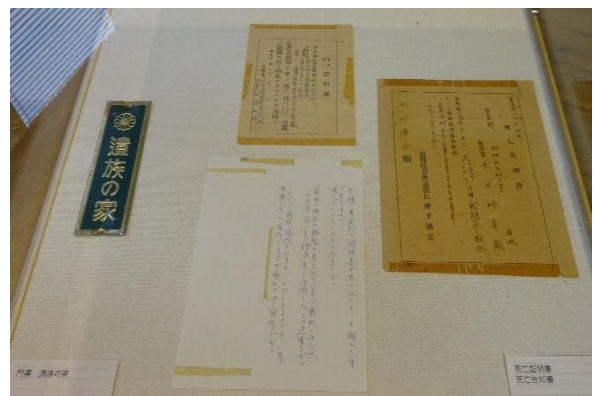
十二月六日 あすはちょうそうです



左：子ども用国民服 上着・ズボン
右：着物、もんぺ、「大日本国防婦人会」褌、割烹着



上段：弔辞 下段：葬儀順列



門標「遺族の家」、死亡証明書、死亡告知書

第3章 毎日のようにB29が



パナール写真：十二月十八日の学級日誌

大津市歴史博物館提供

空襲

滋賀県を襲った空襲は昭和20年(1945年)の7～8月に集中しています。小型の艦載戦闘機が、ロケット弾と機関銃で軍事拠点や工場を襲撃しました。また、アメリカ軍が空襲を行うとき、琵琶湖が目的地を確認する目印となっていました。アメリカ軍の飛行機が通ることになり、空襲を知らせる空襲警報(サイレン)が、たびたび鳴りました。

瀬田町の空襲被害はありませんが、隣の石山町(大津市石山)では、7月24日にB29爆撃機から東洋レーヨン工場に模擬原爆(パンプキン爆弾)が投下され、死者16名、負傷者が100名以上の被害がでました。



上着、もんぺ、防空頭巾、防火バケツなど

城南国民学校周辺を襲った空襲

水野 道子さん

瀬田国民学校の児童が学級日誌を描かなくなった

戦争末期のこと。昭和20年(1945)6月26日、彦根の城南国民学校では付近に爆弾が落とされました。校舎は爆風で窓ガラスが割れ、屋根瓦が吹っ飛んでしまい、使えなくなりました。学校周辺では、空襲によって亡くなった方や負傷した方がいました。

当時、教員だった水野道子さんは、午前10時ごろに警戒警報が発令されると、麦刈りをしていた児童たちを急いで下校させました。やがて琵琶湖からB29が、学校にむかってやってきました。水野さんは、低空飛行する低い音が聞こえたとき「爆撃がある」と直感しました。先生たちは急いで防空壕に隠れました。防空壕の中は、ズシン、ズシンと爆弾の落ちる音がしました。

体験談：7月24日の空襲で弟が死に、自分も盲目に

I子さん

御園国民学校(今の東近江市)に到着したら「警戒警報が発令された。近くの方は家に帰りなさい」と先生に言われ、弟と一緒に家へ戻りました。防空壕へ入ろうとしたその時、近くに爆弾が落ち、私は気を失ってしまいました。爆弾の破片は弟の横腹を貫通し、しばらくして亡くなりました。私は、顎や腕に怪我をしていました。しかも、気づいたら目の前が真っ白になって、何も見えなくなってしまいました。

2年後、戦地から父が帰ってきました。しかし、私は目が見えないことを言えませんでした。食卓のご飯茶碗をひっくり返してしまい、父に目が見えないことが知られました。父は、一週間私を抱きしめ、泣いてくれました。



焼夷弾、機銃弾・薬きょう



「燈火管制と其の警報」



- 右上：一月十一日 その田先生が従軍されることに
- 右下：一月十三日 ぶんだんのけんきん
- 左上：一月十八日 うんと勉強してこそ
- 左下：一月十九日 にくいにくいB29



- 右上：二月五日 敵機は堂々と日本へやって来ます
- 右下：二月七日 ゆたんぼ
- 左上：二月十二日 今日で修身の本は終わり
- 左下：二月二十二日 兵隊さんに送る、いもんじょう



湯たんぽ（陶製）



『初等科國語』七、『尋常小学修身書』巻五



- 右上：三月六日 がくげい会のようえんしゅう
- 右下：三月八日 いよいよ今日は学げい会
- 左上：三月十日 陸軍記念日
- 左下：三月十五日 歌を習う



三月十九日 卒業式の前日、けい戒警報

体験談：黒色の学級日誌

吉田 清子さん

この日記を書きだした時分と、書き終えた時分とは、一年の間にすごい生活も環境も全部ちごうてきて。あとの方になると、防空壕に入ったとか、怖かったとかね、(空襲警報が鳴って) 帰った、とか書いていますしね、「やっつける!」とかね。

赤や黄色やら(学級日誌に)塗っていた色が、結局最後は黒い飛行機みたいに黒い色しか考えられんようになっていた。そんなことは教えてもらってないけど、そういう気持ちになったのかな。

B29 をネズミ色にして光をつけよう、そんなのは考えられんようになってきたんやと思います。

体験談：複雑な思いで聞いた玉音放送

西川 綾子さん

「明日重大放送がありますから、うちの家へ集まって下さい」ゆうて、町内会長さんが知らさした。8月15日で夏休みですから、学校へ行ってないんです。そしたら、あまり聞こえないんですね。音は小さいし、それからまさかと思ってますしね。しかしようやく意味がわかりましてね。しばらくして町内会長さんが「ほしたら、今までに何百万という兵隊が死んだのはどうなるのや」「死んだ者の命を返せ」

ゆうてね、地団駄踏んでね、怒らりましたですね。

「何のために戦争したんや」ゆうてね、戦争始めたんが悪いんですからね、日本の方から真珠湾攻撃したんですからね。やっぱり複雑な思いでした。もう戦争が止んでよかったと思いました。

第4章 『学級日誌』のそれから



体験談：戦後の学級日誌のあゆみ

西川 綾子さん

「戦時中に描かれた学級日誌は、終戦をむかえると学校に置くことができなくなります。なくなることを恐れた西川綾子さんは、学級日誌を自宅へ持ち帰り、長い間保管しました。西川さんは、11年勤めた瀬田小学校を離れ大津市の小学校を転任し、大津市の教育委員会に勤めました。そこで偶然にも、戦時中の学級日誌は注目されるようになります。」

戦後は、修身や国語の教科書で忠君愛国など戦争に関する文章が載っているところは、全部消さなければなりません。絵日記も学校に保管するわけにはいきません。だから大切に自宅に持って帰って、保存することにしました。

その後私は、瀬田小学校に11年、中央小学校に10年、志賀小学校に7年。坂本小学校に4年、長等小学校に2年。それから大津市教育委員会の指導主事として6年間勤務しました。

市教育委員会の一室で仕事をしている時に、まだ計画だった大津市歴史博物館の学芸員の方が、「歴史博物館に展示するものはないでしょうか」と訪ねてこられました。私は30年間保管してきた絵日記を持ってきて、「これはどうでしょうか」と聞きますとたいへんよろこんで下さって、「さっそく展示

します」といって、借りていかれました。

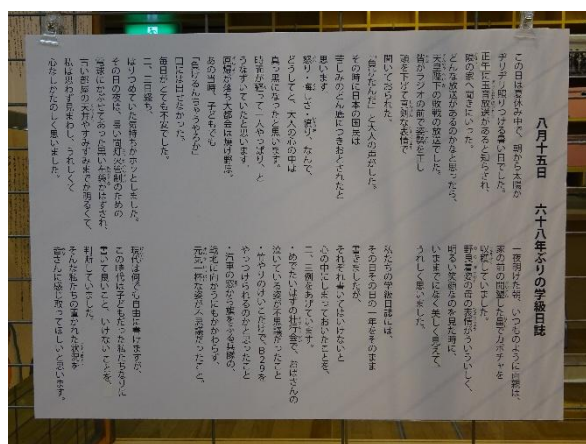
それから 20 数年。絵日記は大津市歴史博物館に保管されています。私がもし大津市教育委員会で働かなかったら、学芸員の方が来られなかったら、この絵日記は永久に私の部屋に保存されたままでした。なんという数奇な運命でしょうか。私は非常に不思議に思います。

〔2008 年 6 月、「筆者が語る・戦中『学級日誌』」の講演会の発言より〕



「百九十二枚目の学級日誌」

「終戦の想い出」（平成 25 年作） 南大萱資料室所蔵



八月十五日 六十八年ぶりの学級日誌

体験談：子どもたちの成長が、最高の喜びでした

西川 綾子さん

西川綾子さんが女子師範学校を卒業して、最初に赴任したところが瀬田尋常小学校（のち瀬田国民学校）でした。昭和 19 年、五年智組の担任になった西川綾

子さんは、子どもたちに学級日誌を描かせました。西川さんにとって、子どもたちの成長が最高の喜びでした。

私は 19 歳で教師になりました。あまり積極的に融通の利く教師じゃなかったですね。校長先生に叱られることが多かったですね。たとえば、職員田で毎年田植えをするんですね。最初に田んぼに入った時に、あぜ道から苗の束をね、ほってくれる人がいはるんです。苗の束をぽんぽん、ぽんぽん放らるんです。それを分けたのを左手で持って、右手で 2、3 本づつ田植えするんですね。それを知らんもんやから、ワラで縛ってあるままの束をもって、右手で抜きながら植えていて、校長先生に「苗を束ごと持って田植えしはる人ははじめて見たわ」ゆうてね、笑われたりしてね。そういうへまばかりしてました。もう夢中でしたね。

私、子どもが好きなので、子どもが可愛くてね。11 年間は楽しんでましたね。子どもらが日に日にいろんなことを覚えていって、体得してくれるのが教師の喜びですね。毎日、仕事に対して意欲満々です。とくに絵日記を描かせたころはそうでした。

子どもたちが一日ごとに漢字を覚え、あるいは難しい文章を解説し、あるいは算数でも、教科学習はとにかく一生懸命にやりました。分数の計算ができ、小数の計算ができ、何桁の割り算、かけ算ができ、応用問題ができてっていう、そういうことを身につけて卒業していってくれるというのがね、最高の喜びでしたね。



手前：戦時中の子どもの日記

上野欽一さんは、昭和 18 年（1943 年）、城西国民学校 2 年生

のとき、先生からの指導で、毎日「絵日記」をつけるようになりました。一部の日付が飛んでいることもあるが、絵日記を読むと、そのころの世相や戦時中の生活の様子がよくわかります。

昭和19年(1944年)になると絵日記の紙は、えんぴつで書いても破れるような粗悪品になったそうです。

瀬田国民学校の絵日記

左上：四月二十一日 うれしい行軍

左下：九月二十五日 学習園のおいも掘り

右上：十月五日 また運動会のようえんしゅう

右下：十月十六日 秋の一日



『学級日誌』紹介動画（南大萱資料室提供）の上映風景



「滋賀県神崎郡能登川東小学校 みたまゝ記」(個人所蔵、大津市歴史博物館寄託)のパネル展示

東京都世田谷区の京西小学校の松川教諭が、昭和29年に矢嶋先生が校長を務める能登川東小学校での視察内容をまとめた絵巻物です。

第15回企画展示「少女たちが綴った『学級日誌』一戦時中の瀬田国民学校五年智組一」
(会期:平成28年10月1日～12月25日) 展示資料一覧

プロローグ				
展示資料なし				
第1章 矢嶋校長がめざした「総合学習」				
No.	資料名	点数	資料説明	提供者名
1	国民学校の成績簿「通告簿」	1		個人提供
2	国民学校・記名符	2	学生服裏地用布片、8連2枚	個人提供
3	「学校経営ノ目標」	1	高宮国民学校	個人提供
4	「本校経営ノ概要」	1	滋賀県犬上郡高宮町立高宮青年学校	個人提供
5	「本校経営概要」	1	滋賀県犬上郡高宮国民学校	個人提供
6	「訓育方針」	1	滋賀県犬上郡高宮国民学校	個人提供
7	「本校訓育経営案」	1	滋賀県犬上郡高宮国民学校	個人提供
8	「防護計画案」	1	昭和17年4月、犬上郡高宮国民学校自衛団	個人提供
9	「団体勤労作業操典」	1		個人提供
10	「各科目実力錬成学習指導要項」	1		個人提供
11	『国民学校写真解説』	1	昭和16年3月、朝日新聞社発行	個人提供
12	標語「貯蓄励行・贅沢排除・節米実行」	1	大津市	個人提供
13	「国民精神総動員強調週間」ステッカー	1	滋賀県	朽木市場区提供
14	「国民精神総動員強調週間実施二関スル件」	1		朽木市場区提供
15	『愈々国家総力戦』	1	昭和14年9月、帝国軍事協会発行	北川麗三さん提供
第2章 大阪からやってきた疎開の子				
16	疎開児童への手紙	一式	池田喬子さん関係資料、家族から池田喬子さんあて	池田喬子さん提供
17	祖父・父から譲り受けた万年筆	1	池田喬子さん関係資料	池田喬子さん提供
18	書道用水差し	1	池田喬子さん関係資料	池田喬子さん提供
19	疎開先に持っていったすごろく	1	池田喬子さん関係資料、「大東亜」貿易ゲーム	池田喬子さん提供
20	おはじき	一式	池田喬子さん関係資料	池田喬子さん提供
21	糸巻き	2	池田喬子さん関係資料	池田喬子さん提供
22	ハサミ	1	池田喬子さん関係資料	池田喬子さん提供
23	校紋入り茶碗	1	池田喬子さん関係資料	池田喬子さん提供
24	中大江国民学校徽章	1	池田喬子さん関係資料	池田喬子さん提供
25	学業精勤賞状	1	池田喬子さん関係資料	池田喬子さん提供
26	大阪空襲で被災した茶碗	一式	池田喬子さん関係資料	池田喬子さん提供
27	国民服上着・ズボン	一式		個人提供
28	赤襪	1		青木喜代さん提供
29	慰問袋	1		青木喜代さん提供
30	千人針	1		個人提供
31	「勝七入賞銭別帳」	1		中西一雄さん提供
32	銭別袋	3		個人提供
33	出征幟	1	「祝 出征 米谷由松君」	個人提供
34	日の丸の小旗	1	袋に「君可代国旗」の文字あり	中西一雄さん提供
35	赤襪	1	「糟井寛殿 滋賀県東浅井神職会」	北川麗三さん提供
36	子ども用国民服	一式	上着・ズボン	個人提供
37	着物	1	木綿袷	個人提供
38	もんぺ	1		西川よのさん提供
39	「大日本国防婦人会」襪	1		個人提供
40	割烹着	1	現代の物	当館所蔵

41	「村葬執行二関スル件」	1		朽木市場区提供
42	弔辞	1		個人提供
43	葬儀順列	1		個人提供
44	門標「遺族の家」	1		藤田はるさん提供
45	死亡証明書	1		個人提供
46	死亡告知書	1		個人提供
第3章 毎日のようにB29が				
47	上着	1		個人提供
48	もんぺ	1		個人提供
49	防空頭巾	1		北川麗三さん提供
50	防火バケツ	1		個人提供
51	焼夷弾	1		個人提供
52	機銃弾・葉きょう	一式		中西一雄さん提供
53	「燈火管制と其の警報」	1	滋賀県	滋賀県提供
54	湯たんぽ(陶製)	1		個人提供
55	『初等科國語』七	1	文部省発行	滋賀県提供
56	『尋常小学修身書』	1	文部省発行	滋賀県提供
第4章 『学級日誌』のそれから				
57	「終戦の想い出」	1	百九十二枚目の学級日誌、平成25年(2013年)作	南大萱資料室所蔵
58	戦時中の子どもがかいた絵日記	1		上野欽一さん提供

令和8年5月編集